

2026年8月19日
株式会社SVPジャパン

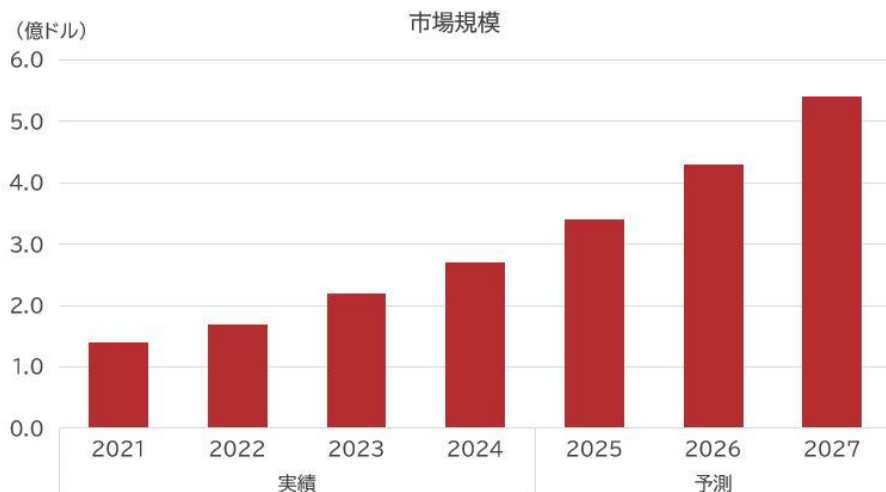
SVP注目市場分析 「ナトリウムイオン電池」を公開

～中国主導で商用化が進展、用途最適化が競争の焦点に～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「ナトリウムイオン電池-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ ナトリウムイオン電池の世界市場



ナトリウムイオン電池は、リチウムの代わりにナトリウムイオンを電荷担体として用いる充電可能な二次電池である。既存のリチウムイオン電池の製造技術を活用しやすく、豊富で比較的安価な材料を利用できることから、資源制約や原材料価格の変動リスクに対応する次世代蓄電池として注目されている。2024年の世界市場は2.7億ドルと推定され、市場は実証段階から初期量産へ移行しつつある。定置用蓄電や小型モビリティ、バックアップ電源などを中心に採用可能性が広がる中、今後は量産体制の構築と実証実績の蓄積が、本格的な市場形成に向けた重要な条件となる。リチウムイオン電池との棲み分けを図りながら、用途ごとの最適化をいかに事業競争力につなげるかが、今後の市場拡大を左右する。

■ ナトリウムイオン電池の市場概況

ナトリウムイオン電池市場では、中国企業が量産化と商用化を先行し、定置用蓄電や小型モビリティを中心に市場形成を進めている。一方、欧米では専門企業による事業化や政策支援を通じて、追従する動きが広がっている。競争軸は、エネルギー密度などの性能そのものから、経済合理性や量産技術、実証を含む事業化能力へ移りつつある。既存のリチウムイオン電池製造設備を活用しやすい一方、商用実績の不足や標準化・制度整備などは課題として残る。こうした中、日本は材料や安全性、品質評価などの強みを生かし、用途を絞った事業化を通じて世界市場で競争力を確立できるかが問われている。本格普及に向けて、量産・実証実績を事業競争力へつなげられるかが重要になる。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

9月のテーマは「ペロブスカイト太陽電池」と「核融合」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com